

令和4年度（2022年度）

## 学校評価の考察と来年度に向けて

長野県寿台養護学校 学校評価委員会

### 1 アンケートの実施形態

- ・昨年度とほぼ同様の質問事項10項目について、無記名のアンケートを、保護者と教職員に実施した。
- ・グーグルフォームを利用して回答してもらった。文書とメール連絡網でURLを通知した。

### 2 アンケート回収率

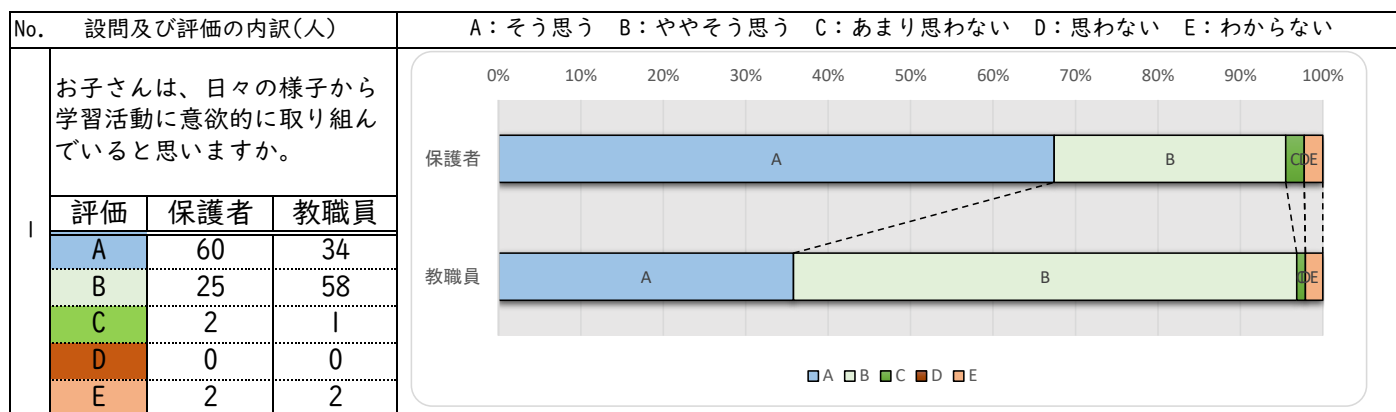
保護者 61%（昨年度は64%）

教職員 86%（昨年度は92%…回答の重複あり）

昨年度より回答率が低下した。保護者に対しては回答の呼びかけが弱かった。部のおたよりやオクレンジャーを利用して、回答の呼びかけを増やせるとよい。また、回答期間も延ばせるとよい。

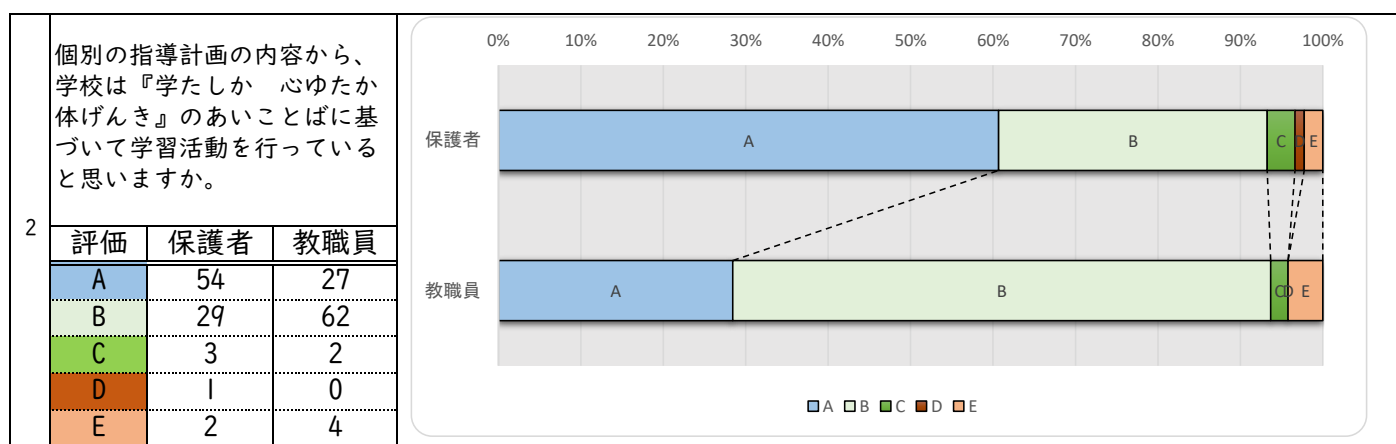
### 3 アンケート結果と考察

[ ]内は保護者からのご意見（一部抜粋）



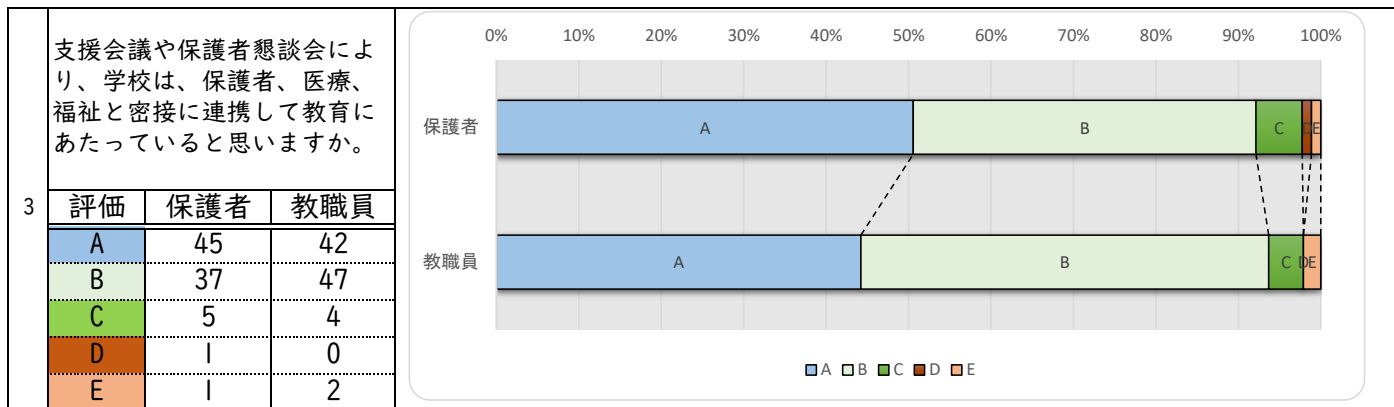
- ・気分がムラがあり、集中力が続かない。興味の幅が狭く、意欲的に取り組めていないことが多いように思う。
- ・子供に合わせた学習内容を、先生方が工夫を凝らして実施していると感じています。

保護者からのA評価が、昨年度に比べて15%以上増加し、高く評価していただいている。今の取り組みを生かし、アセスメントに基づいた、児童生徒にとってわかりやすくやってみたくと思えるような授業づくりを引き続き行っていきたい。



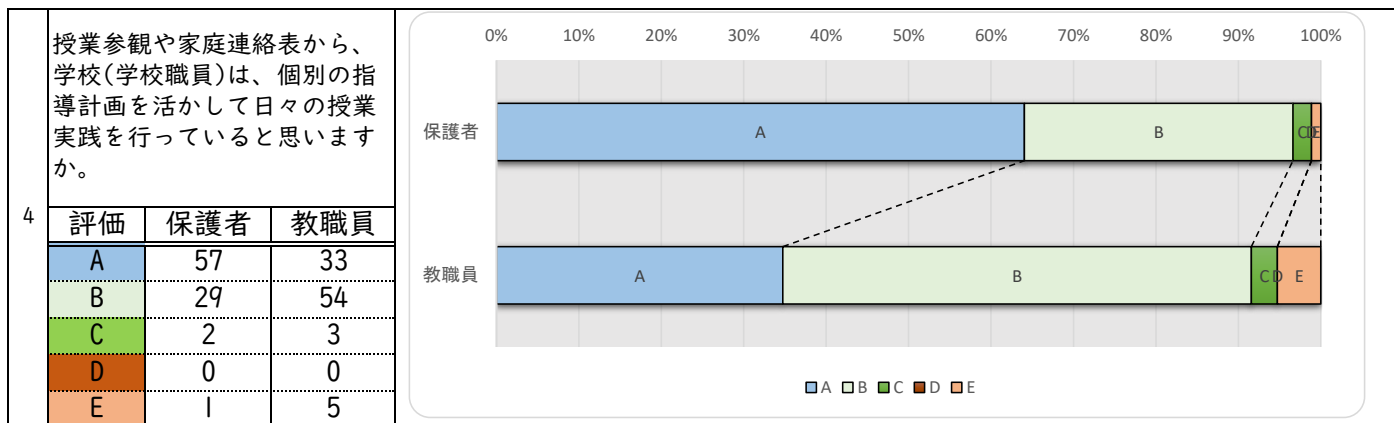
- ・学校が長期休暇中や急遽閉鎖になったとき、その間何か指示があるわけでもなく、各家庭に任せて、言い方はよくないですが、ほったらかしになっていると感じます。学たしか、と言えるのでしょうか。
- ・学びの面では今出来ていることを何度も繰り返し確実に行ってくださっておりますが、ひとりひとりの子どもがもつ能力を最大限に引き出せるような、一歩先を見据えた学びの内容があると嬉しいです。
- ・心ゆたか 体げんき についてはとてもそう思います。感謝しています。

保護者からはA・B合わせると概ね良い評価をいただいているが、教職員は「あいことば」に基づいての学習活動について、まだ十分ではないと感じている。個別の指導計画を作成する時に、学校教育目標を具現する一つの考え方として意識していきたい。



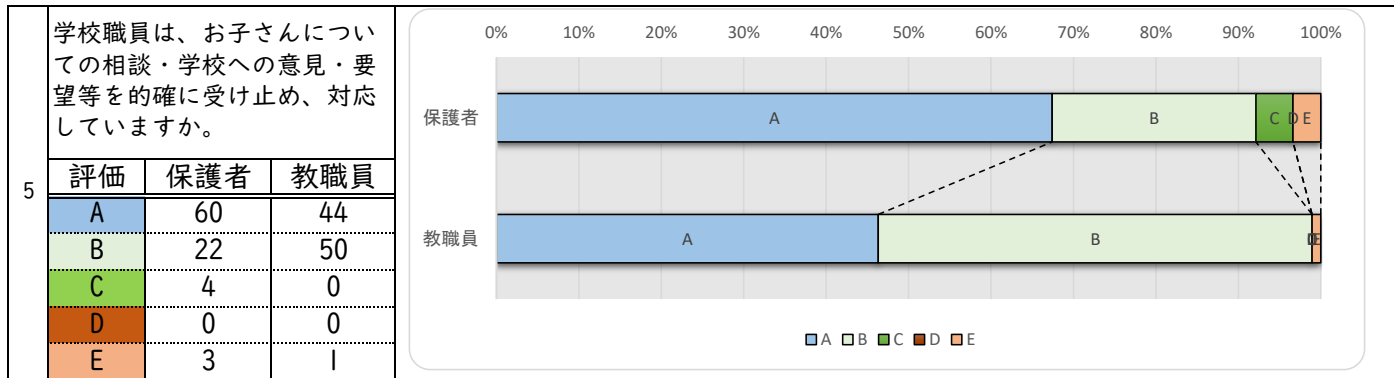
- ・コロナの影響で普段の子供の様子を外部の先生方に見ていただく機会がなく、逆にリハビリ施設に先生をお呼びすることもできず、連携が取れない環境にもどかしく思っています。
- ・支援会議では親の希望をしっかりと聞いてくださり、施設のスタッフの方の情報共有もしていただきました。感謝の気持ちしかありません。

A・B合わせると高い評価をいただいているが、A評価だけを見ると、他の設問よりやや低い。コロナ禍で訓練参観などができにくいことが理由と考えられる。今後も、支援会議により医療や福祉と連携し、保護者懇談会などにより保護者とさらにつながりを深めていきたい。



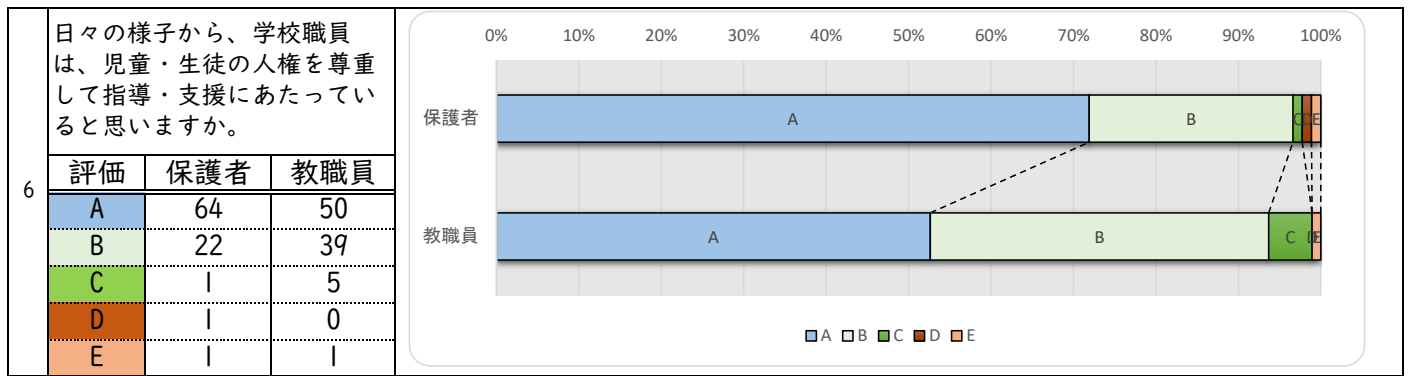
- ・文章が沢山なので、もう少し分かりやすく短文で、見やすい文章だとありがたい。
- ・学校からのフィードバックが少なすぎて分かっていないところもある。
- ・先生方はいつも意識して対応してくださっており、感謝しております。

9割以上の高い評価をいただいたことから、個別の指導計画を活かした日々の授業実践が行われていることが伝わっていると思われる。懇談会や家庭訪問、授業参観、日々の連絡帳で、子どもの様子を伝えながら、さらに理解していただけるようにしたい。



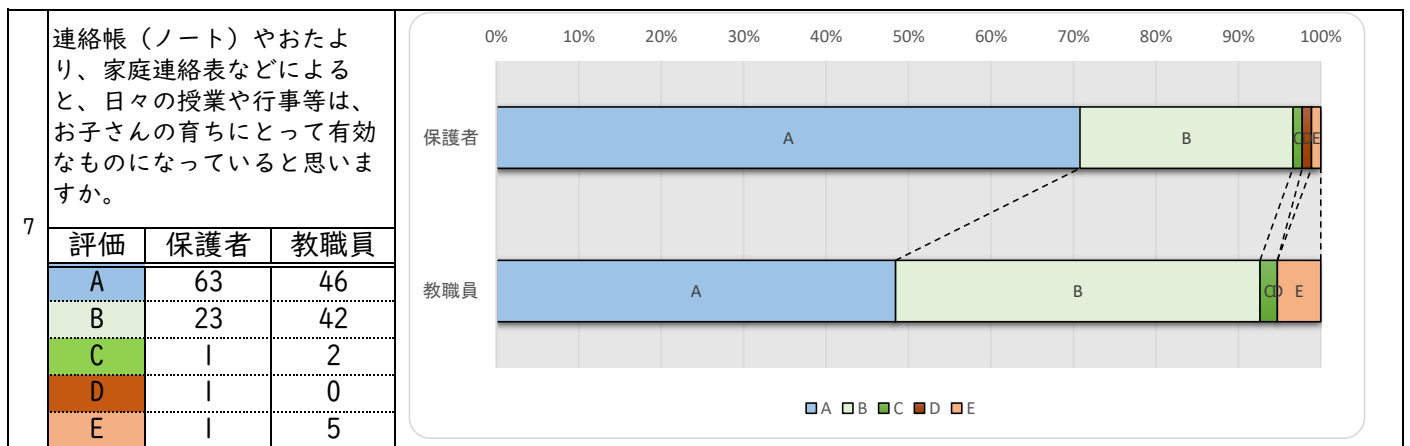
- ・一応聞いてはくれるが、先生自身の意見を曲げない、現状維持を強いる印象が強い。
- ・常に伝えやすい雰囲気を作ってください、子供の成長と一緒に見守ってくださっている感じがとても伝わってきます。

9割以上の好評価をいただいているものの、中には、学校側が対応していないのご指摘があった。引き続き、保護者の話を丁寧に聞き、家庭と連携しながら適切に対応していきたい。



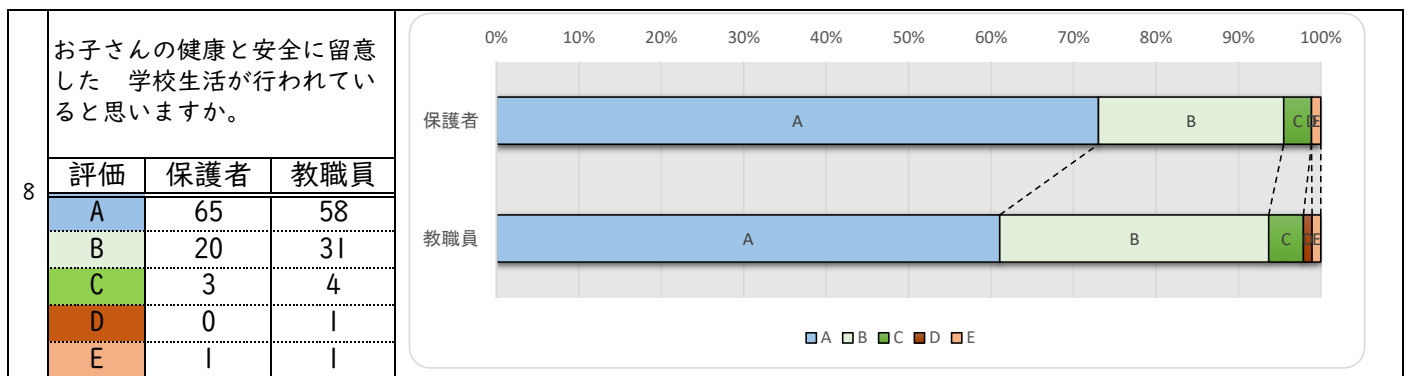
- ・指導の仕方、対応に体罰と思わせるようなことがあります。説明できない子どもを、今日は大丈夫かなと不安に思いながら送り出すのは保護者として辛いです。
- ・おむつを変える際、異性の生徒の場合配慮をしてください、一人ひとり本人の意志を確認しながら支援してくださっています。

保護者からは高い評価をいただいている。教職員の評価が保護者よりも低めなのは、さらに人権感覚を高めて、児童生徒へよりよい指導・支援をしたいという向上心の表れであると考えます。



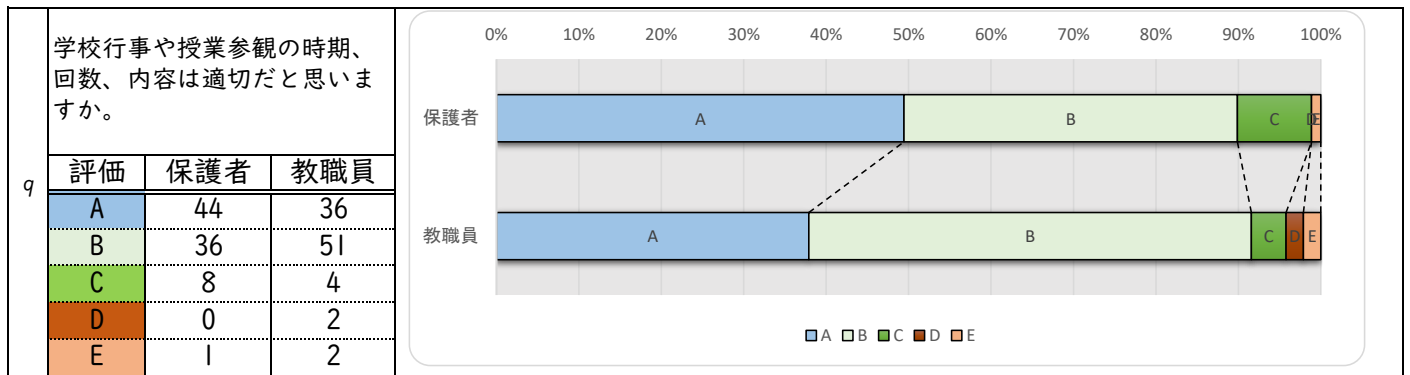
- ・日々の学校生活は充実したものであり、行事についてもとても楽しく取り組んでいる姿が伝わってきます。
- ・沢山の貴重な経験をさせてもらっています。ありがとうございます。

日々の授業や行事が子供の成長に有効であると、9割以上の保護者から評価されている。これからも、授業や行事のねらいについて、個別の指導計画を作成する時に保護者と相談していきたい。



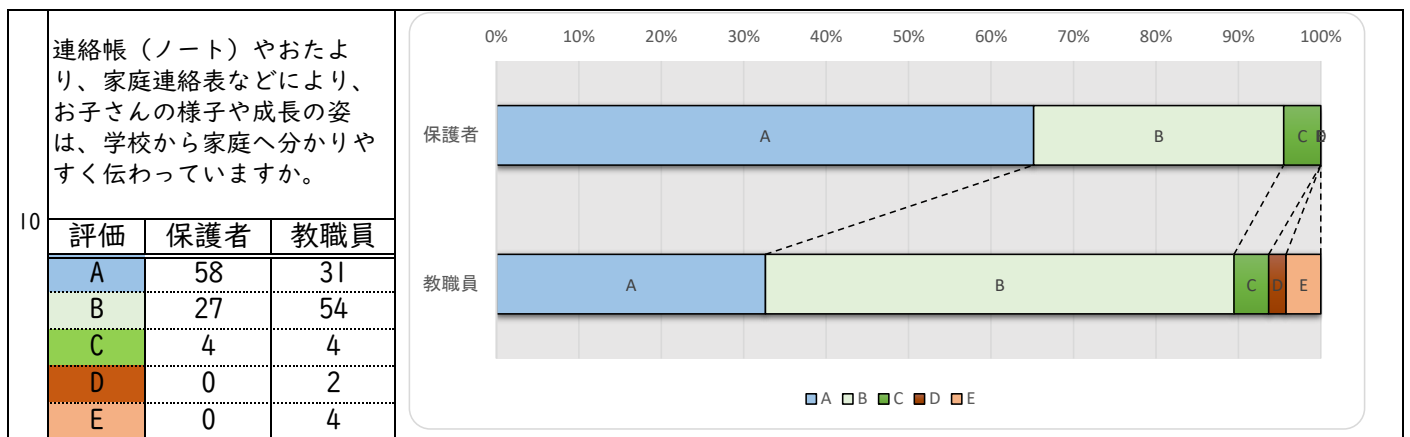
- ・子供が安全に過ごせるように先生方は配慮してくれていますが、環境的に危険なことがたくさんあり、心配。広いスペースの子供用トイレがない、床が固くて移動する際膝を痛める、自分の荷物を自分で取ることができない棚など。
- ・インフラ上、安全という点において緊急時の避難方法などに不安があります。
- ・緊急時の駐車場や引き渡し場所の改善が必要だと感じます。

保護者の9割以上から良い評価をいただいた。活動場所や教職員数に限りがあるので、教職員はもっと良い環境で学習活動をしたという思いが強いと考えられる。これからも、安全面・健康面については最大限配慮していきたい。



- ・コロナ禍でオンラインが多くて見づらい点はあったが、それは仕方がないのかなと思います。
- ・仕事をしながらの立場では、回数は多いと感じます。
- ・授業の様子を見て、気が付いた事を先生ともっと共有したいです。参観日にどこが見どころなのか分かりにくいです。
- ・特別な授業ではなく、普段の様子が見たいです。

C評価が多い設問だが、授業参観の回数や方法については賛否両論あった。直接参観していただきたいのはもちろんだが、感染症対策をした上で実施可能な方法を検討していきたい。



- ・本人の様子が分かりにくい。ノートは先生の感想になっていて、本人とのやり取りが少ないように見受けしてしまう。取り組みや指導で成長している部分があるのかどうか見えづらく、できない部分や課題ばかり書かれると、親としては切ない気持ちになる。
- ・成長を感じることを日々書いてくださるので、とてもありがたいです。
- ・毎日手書きでひとりずつ書かれるのは大変なことだと思いますが、学校での様子がよくわかりとても助かります。先生方には大変感謝しております。

コロナ禍で、参観日等で直接児童生徒の学習の様子を見ていただくことが難しい中、連絡帳やお便りを工夫してお子さんの頑張っている様子をお伝えしていることが保護者の方に評価されている。教職員は、発信する側として、よりわかりやすくしたいという思いにより、A評価が低い。今後は、授業や行事のねらいについてもお伝えしていけるとよい。

#### 4 学校評価委員会の考察（まとめ）

##### (1) 学校評価アンケートからみた本年度の成果

- ・全ての設問において高評価をいただいている。学校での取り組みや日頃の支援について肯定的にとらえていただいているものと考えられる。さらに、学校側が何に力を入れているか明確にすることで、保護者にも伝わりやすくなるのではないかと。
- ・全般的に、保護者が学校教育に理解を示している評価であるととらえる。
- ・保護者から、「学校へ行くのを楽しみにしている」「学校、学校と言って登校する」等の記述があった。学校が楽しいと感じてもらえていることが、大きな成果と言える。

## (2) 前年度比較からの考察

- ・回答率が下がった。教育活動に関心が低いのかもしれないので、学校からの発信を増やし、関心をもってもらえるようにしたい。
  - ・評価対象を明確（「〇〇により～」）にしたことで、設問について具体的なイメージがもて、回答しやすくなっていると考える。
- また、評価する保護者にとって、理解を深めるために大切な内容だったと考える。
- ・設問Ⅰで、保護者からのA評価が昨年度と比べて15%以上増えた。教職員の指導、支援の工夫により、子どもたちが学習活動に意欲的に取り組んでいることが、子どもたちの姿から保護者に伝わっているものと考ええる。
  - ・保護者からの良い評価が増え、「わからない」という回答が減った。教職員の努力により、保護者からの理解が得られるつつあるのではないかとと思う。

## (3) 今後も継続的に取り組むこと

- ・課題は皆無ではないが、総じて肯定的に評価していただいている。これまで行っている当たり前の日常的な支援を、これからも続けていくことが大切だと考える。
- ・アセスメントに基づいて、その子にとっての必要な学びを楽しみややりがいを見極めて、チームとして必要な学習と支援を行っていききたい。
- ・コロナ禍において、連絡帳やお便りは、日常の児童生徒の様子をご家庭にお伝えする方法として、大切な要素となっていたのではないか。今後も、家庭との連携協力をより確かなものとしていくために大切な要素として取り組んでいきたい。

## (4) 来年度、大切に組みたいこと

- ・アセスメントに基づいて、個別の指導指導計画の作成や授業づくりを行っていく。
- ・個別の指導計画に「学びたしか・・・」のあいことば、どう教育課程に生かされているかわかりにくい面があるのではないかと考える。
- ・相談などに対応できていないとの指摘もあるので、保護者からの相談にすぐに対応する等、より丁寧な対応が必要である。また、連絡帳やお便りなどを通して学校の様子をお伝えしながら、保護者と連携して支援を充実させていきたい。
- ・個人情報保護の面から、デジタル化はすぐに進められないが、連絡帳やお便り以外にも、発信する方法を工夫したい。
- ・コロナ禍が長引いている中、行事の内容や実施方法について、中止にしない方向を探っていききたい。
- ・授業参観の回数については、多い少ない両方の意見が出ている。コロナ禍であることを踏まえつつ、より良い方法を考えたい。
- ・保護者から「遊んでいるだけ」「放っておかれた」等のご意見があったことから、授業のねらいや意図、子どもの伸びた点などを学級や部から伝えていく努力をしたい。学校全体でも、力を入れていることや日々大切にしていることをもっと発信していくようにしたい。

## 5 学校評議員からの意見

- ・回答率が下がったのが気になる。回答したことで変わっていくということが感じられると、取り組んでくれるようになるだろう。紙との併用も考えたかどうか。Googleフォームに変えたことの評価も、数年後にできるとよい。
- ・回答率が60%を下回ると信ぴょう性が低くなる。アンケートに答えない方の意見も取り上げたい。
- ・人権に関する設問について、教職員の無記名評価で、昨年よりも高い評価が増えている。良い傾向である。
- ・コロナ禍により、保護者同士の連携がなくなっている。第一子の場合、学校生活や将来の見通しがなく不安だろう。学校から丁寧に伝えていけるとよい。
- ・コロナ禍ではあるが、社会性を保ち、本人、保護者、医療、福祉とで情報共有をしっかりとっていききたい。
- ・コロナ後を見据えて、さらなる活動や交流の工夫を考えていくとよい。
- ・学校から家庭への伝え方が一方通行なのではないか。通常の懇談会だけでは足りない人もいる。保護者とⅠ対Ⅰでコミュニケーションをとる手段を考えてほしい。